

施設概要

用途 : 研究施設
 構造・規模 : 鉄骨造、地上2階建て
 建築面積 : 1,096㎡
 延床面積 : 2,115㎡
 高さ : 10.3m (屋上ルーパー12m)

主な設備

- ・走査型電子顕微鏡/エネルギー分散型X線分光計
- ・多目的X線回析装置
- ・実験室 XAFS装置
- ・光ファイバーLIBS分析装置
- ・ガンマ線エネルギー分析装置
- ・蛍光イメージングリーダー
- ・顕微ラマン分光装置
- ・誘導結合プラズマ質量分析計
- ・制御棒ブレード破損試験装置
- ・水蒸気雰囲気での急速昇温反応炉
- ・汎用クラスタ型並列計算機 等



国際共同研究棟イメージ図



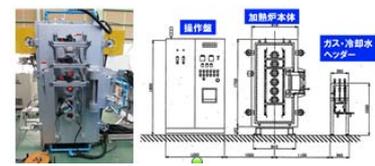
実験室XAFS装置



多目的試験棟のイメージ図



ガンマ線エネルギー分析装置



制御棒ブレード破損試験装置

1. 建設工事の状況について

- 国際研究棟の建設工事全般については、予定通り進捗している。
- 建設工事については、建屋の外壁パネル設置をほぼ完了。各階の天井ボードの設置、壁塗装などを実施中。
- 東北電力からの本格受電開始。(1/21~)
- 建設工事の進捗に合わせ、ボード開口部の電気設備・機械設備工事も実施。
- 外構工事は、雨水柵・排水溝の据付を実施。外灯の設置のための掘削・配管・基礎設置などを実施。これにより現場事務所(プレハブ)を移設。
- 多目的試験棟については鉄骨建方を完了し、躯体工事を実施中。

2. 運営に向けた準備状況

- 消防法、労安法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法関係届出準備の継続(自治体、広域消防、労基署等)。
- センター内の保安規定、規則手引き類の準備を継続。
- 3月15日(研究棟引き渡し)以降の管理方法、地震時など緊急点検・連絡体制等について確認。電気設備等の巡視については、引き続き検討中。装置搬入計画を策定中。

1月末工事進捗率:78%

3. 建設現場写真

(平成29年1月27日現在)



国際共同研究棟 (南側から)



(多目的試験棟)



国際共同研究棟 (西側から)



研究棟と試験棟 (北側から)

富岡町における復興状況 (平成29年1月末現在)

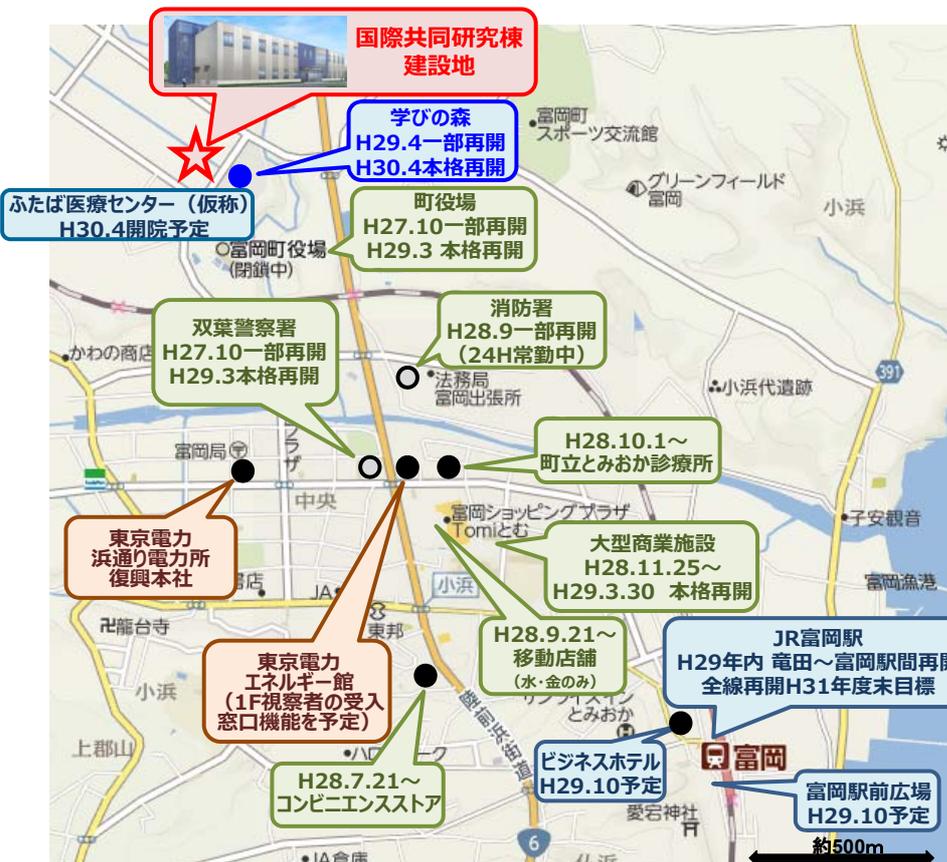


図. 富岡町における復興状況



【国際共同研究棟建設地等の概況】

- ・1Fから約10km (車で移動距離)
- ・居住制限区域 (準備宿泊中 H28.9.17~)
- ・H29.4帰還開始を目指す
- ・空間線量率約0.43 μ Sv/h (H29.1)
- ・除染作業はH28年度完了予定
- ・JR富岡駅から約2.5km
- ・JRいわき駅から約40km
- ・電気、ガス、上水道は復旧済
- ・下水道はH28復旧完了見込
- ・震災時の町の人口 約16,000人
- ・避難指示解除後の帰還の意向 (H28.10復興庁) : 戻りたいと考えている16.0%、まだ判断がつかない25.4%、戻らないと決めている57.6%